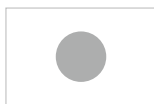


つがる市産りんごの おいしさをPR



台湾りんごトップセールス



新光三越信義店でのオープニングイベントであいさつを述べる福島市長

つがる市産のりんごのおいしさを宣伝し、消費・販路拡大につなげようと、11月23日から25日まで、つがるブランド推進会議（会長・福島市長）が台湾でりんごPRキャンペーンを行いました。福島市長ほか山本清秋議長、天坂昭市経済常任委員長、つがるにきた農協の三上純一専務、青森アップルジュウスの葛西務社長、ミスりんごら計19人が台北市新光三越信義店で市産りんごの安全性とおいしさを消費者に直接PRしました。今年は幅広い年代への宣伝活動として、台北市内の児童施設2カ所を訪問し、子どもたち全員にりんごをプレゼント。施設長から感謝状と記念品を受け取り、相互の友好も深めました。



つがるブランド農産物を紹介



試食りんごを勧める山本議長

台湾でのトップセールスは昨年度に引き続き2回目。昨年11月から2月まで台湾各地で展開されている市産りんご販売の促進を図るため、市場の需要が高まる年末前に合わせ行われました。

11月23日、福島市長らは台北市内の児童福祉施設を訪問。「りんごは栄養が豊富で、子どもたちにもたくさん食べてほしい」と箱入り「ふじ」を施設長に寄贈し、つがる市のりんごの特徴などを紹介しました。

翌24日、台北市中心部に位置する新光三越信義店の特設ステージでは、津軽三味線の演奏とともにキャンペーンが開幕。福島市長が「今年もおいしいりんごがたくさん収穫されました」、山本議長が「りんごを通して台湾の皆さんとつがる市の友好が深まることを願います」とあいさつしました。

会場を訪れた先着1000人には台湾で縁起のいい「福三春」の文字入りりんごがプレゼントされ、受け取った人々は大喜びしていました。

福島市長らが「ふじ」と「トキ」の試食宣伝を行うと、買い物客らは新鮮なりんごを味わい、

国内でも販売促進

防衛省・町田市



防衛省内のコンビニで市産りんごをPR

11月30日から12月2日まで東京市ヶ谷の防衛省と町田市でつがるブランド農産物の宣伝販売会が行われました。

まちの駅「ぼっぼ町田」では、福島市長はじめ、山本議長、生産者、農協関係者らがりんご、長いも、米などの農産物やアップルパイなどの加工品を宣伝・販売しました。生産者らが「青森県つがる市のとれたての味覚を味わってください」とPRすると、試食した買い物客らは次々に買い求めていました。



石坂丈一町田市長(右)も会場に訪れる



米の計り売りも好評(ぼっぼ町田)



台湾でも人気のつがるちゃん



りんごのプレゼントを求めて長蛇の列が



市産りんごの販売コーナー



テレビ局の取材を受ける福島市長



児童福祉施設長(右から2人目)にとれたてのふじを寄贈する福島市長ら

「あまくておいしい」「いい香り」「みずみずしい」と笑顔を見せ、買い求めていました。会場には、りんごの生育過程やつがる市の四季の風景などの映像も上映し、つがる市を幅広く紹介した。

今年は台湾メディアへのPRを強化し、積極的な情報提供を図ったところ、雑誌・テレビ局など計約30社からの取材を受け、市産りんご、つがるブランドの認知向上や消費拡大をアピールすることができました。

市では、今後も引き続き市産農産物の販路拡大と販売促進に努めていきます。